

9037 ハマキョウレックス

大須賀 正孝 (オオスカ マサタカ)

株式会社ハマキョウレックス会長

大震災の影響を受けるも、増収増益を達成

◆2011年3月期業績(連結)

(株)ハマキョウレックス社長 大須賀 秀徳

連結の業績は、営業収益 855 億 65 百万円(前期比 9.3%増)、経常利益 60 億 45 百万円(同 20.4%増)と増収増益を確保できた。物流センター事業が引き続き順調であったこと、連結子会社の近物レックス(株)が初めて増収増益を達成したこと、および連結子会社が増えたことがその主因である。

東日本大震災の影響は、宮城県下、茨城県下、その他北関東の一部で建物に被害があったが、人的被害は皆無であった。建物の被害によって物流が一時ストップしたが、現在は、原発の影響を受けた福島県の近物レックス(株)のエリア以外はすべて回復している。当期は大震災の影響により 1 億 53 百万円の特別損失(主に修繕費用)を計上した。

セグメント別の推移では、物流センター事業、貨物自動車運送事業、ともに増収増益だが、特に貨物自動車運送事業がプラスに転じたことが大きく業績に貢献した。

物流センター事業の営業収益は前期比 22 億 91 百万円の増加となった。センターの新規と既存でみると、前期オープンしたセンターに伴う増加が 20 億 40 百万円、当期オープンしたセンターに伴う増加が 6 億円である。既存センターでの減少 3 億 52 百万円を新規が補った結果となった。

物流センターの稼働状況は、当期の新規受託は 14 社であり、前期受託した稼働案件 2 社と合わせた 16 社のうち、当期は 11 社が稼働している。取扱品目別売上高の比率は食品 36%、アパレル 34%、医療・雑貨 30%であった。

燃料の高騰により近物レックス(株)の燃料費が前期比 3 億 41 百万円増加した。高騰は今期も継続しているが、作業の効率化による吸収に取り組んでいる。

当社と近物レックス(株)の取引額の拡大は長くグループの課題であったが、目標であるグループ間取引月額 1 億円を、12 月と 3 月に達成することができた。継続して取組を進めていく。

M&Aについては2010年10月に旧(株)JAL ロジスティクス(現(株)ロジ・レックス)を取得し、第3四半期から連結している。前期の通年売上規模は約 40 億円である。

◆2012年3月期の計画

業績予想は、連結で営業収益 900 億円、経常利益 63 億 50 百万円、(株)ハマキョウレックス単体では営業収益 340 億円、経常利益 40 億円である。ただし、この予想は東日本大震災前後の見通し不明確な時期に策定したため、保守的な計画となっている。本年秋口以降、景況が改善すれば状況に応じて上方修正等を行いたい。

今期は中期経営計画の最終年度となり、次の中期経営計画を今期中に策定する予定だが、社内目標として掲げる経常利益 100 億円を視野に入れて策定、発表をしたい。

◆今後の取り組み

3PL を軸とした事業の拡大を図り、近物レックス(株)のインフラを利用した営業展開を行う。近物レックス(株)の経常黒字化は達成できたが、安定的な経常利益ベースを目指していく。新規顧客受託は年間受託 10 社以上の目標に向けて引き続き注力する。海外戦略は、基本的には国内の顧客満足度向上のための展開を優先させる。M&A は 3PL 事業を行う会社を対象に検討したい。

◆2011 年 3 月期決算実績

(株)ハマキョウレックス常務 日比野 稔

四半期別業績推移で特筆すべきは第 4 四半期の営業利益が前年をやや下回ったことである。これは、物流センター事業の 3 月、4 月に行った大型案件立ち上げの初期経費、および貨物自動車運送事業での原油価格の高騰が要因であり、加えて助成金収入の平成 22 年 9 月での終了も要因のひとつである。

地域別連結営業収益で関東が急激に増加したのは、前期に取得した連結子会社(株)ロジ・レックスの貢献が大きい。

◆近物レックス(株)の業績

近物レックス(株)専務 堀内 悟

当期の業績は、営業収益 353 億 71 百万円(前期比 2.0%増)、営業利益 2 億 53 百万円(同 42.5%増)、経常利益 2 億 21 百万円(594.1%増)と増収増益で着地できた。営業収益が前期比 6 億 95 百万円増加し、それに伴う営業費用が 6 億 20 百万円増加した。

営業専任者、営業担当者を全国に増やして営業強化を図り、また、新規の営業により、近物レックス(株)の主力である積合収入が増加したことが大きく業績に貢献した。同業他社間取引では、従来から得意とする東北地域・三重地域・和歌山地区をさらに強化し、前期比月額 6 百万円増収となった。車両修繕費は 9 カ所の自社工場の効率化に注力し、年間で前期比約 80 百万円の外注費を削減した。

◆近物レックス(株)の業績予想

2012 年 3 月期の業績は、営業収益 362 億 59 百万円、営業利益 5 億 16 百万円、経常利益 2 億 4 百万円を予想している。経常利益は前期比減となるが、当期は助成金収入による営業外の効果が 2 億 50 百万円あったため、事実上は 2 億 33 百万円の改善となる業績予想を立てている。

◆近物レックス(株)の今後の戦略

①震災エリア復興。東日本大震災による被害の復興戦略である。②営業強化。③物流請負業務強化。当社は特積のほかに高効率で収益性の高い 14 センターを運営しており、それらを更に強化していく。④利用運送管理強化。収益とともに費用も増えているが、今後の戦略として利用運送の管理を強化する。⑤燃料費抑制。燃料高騰の継続が見込まれるが、デジタルタコグラフ導入による燃費改善等で削減を図る。

◆経営方針

(株)ハマキョウレックス会長 大須賀正孝

当社の事業活動は、予算は必ず達成するというルールで進めている。東日本大震災の影響を初めとして課題は多いが、新規顧客獲得を順調に行い、収益確保に努める。

物流の基本は売上追求ではなく利益追求だと考えている。また、単に無借金であればよいのではなく、2年間設備投資をやめたら無借金になる額が借金であるべきと考える。それ以上の借金をするためには利益を上げなければならない。当期の設備投資は37億円で、借金はそれを超えていない。無借金になると守りに入りがちであるが、常に挑戦を続けることが重要である。現在検討中ではあるが、約40億円の設備投資も追加で考えている。

M&Aで会社を大きくすることは考えず、まずは本業での努力が基本である。また、これまでにM&Aで取得した会社はすべて、赤字から黒字に転換できている。

当社の社員は優秀だと言われるが、自信が持てれば優秀になる。まず、わかるように教え、わかれば自信を持つことができ優秀な仕事ができるようになる。全員参加、コミュニケーション、日々決算のルールを徹底し、今後とも計画に沿って事業活動を推進する。

◆質疑応答◆

3PLの受託環境は、震災の影響も含めて引合数の変化はあるか。

引合数は今までと変わらず、40~50社ほどの件数である。震災後、物流拠点を従来の1~2カ所にする形が数社で出始めており、今後増える可能性がある。

今期の設備投資計画20億円はベースのものとして、40億円プラスアルファとなるのか、今後の能力拡大を含めて知りたい。

提示した数字は決定済みの件数だけである。40億円は藤沢の案件(予定)で、タイミングが決まり次第発表する。実行すれば40億円超の設備投資になるが、時期等は未定である。

大震災の影響で当期は特別損失を計上しているが、事業面への影響はどうか。

業務上は近物レックス(株)が最大の影響を受け、気仙沼の建物が現在使用不能、仙台の支店も使えない部分がある。気仙沼での物量は減ったがそれ以外の顧客が増えてほぼ同量になっており、ほとんど影響は起きていない。配送では北海道行きの荷物において、輸送方法が変わった部分があるため、費用が若干上がっている。

近物レックス(株)の今期の燃料費の前提とコスト削減の余地はどうか。次期中期経営計画策定で営業利益率5%達成の期間はどうか。

燃料単価の高騰は通期では収束するものとみている。また、近物レックス(株)の利益率5%はできるだけ早いタイミングで実現するのがグループの希望であり、5年以内には達成したいと考えている。

(平成23年5月18日・東京)